

令和6(2024)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価結果

取組/項目/具体的計画	自己評価実施委員会評価				R7(2025年度)第2回 全学自己評価実施委員会点検評価 (令和7(2025)年5月2日開催)	R7(2025年度)第1回 内部質保証推進委員会点検評価 (令和7(2025)年5月9日開催)	R7(2025年度) 第1回内部質保証推進委員会点検評価 改善指示 (令和7(2025)年5月9日開催)
	各評価実施委員会名	プロセス 評価	数値 評価	総合 評価			
1. 教育活動の充実に向けた取組	-	-	-	-	-	-	-
(1) 学部教育の充実と質の保証	-	-	-	-	-	-	-
① 初年次教育の推進・充実	教務委員会	A	C	B	B	B	成果に対する評価基準を明示し、結果との対応関係が明確となるよう記述を改善すること。あわせて、点検・評価の透明性および利便性を高める運用を徹底すること。
	大学教育センター運営委員会	A	B	B	B	B	
② 能動的学修の促進	教務委員会	A	B	B	B	B	教員に関する数値目標の実績データを適切に提示し、自己点検結果の透明性を確保すること。また、過去の指導事項への対応状況を明確に記載し、説明責任を果たすよう改善を行うこと。
	大学教育センター運営委員会	A	B	A	A	A	
③ 専門教育の充実	教務委員会	A	B	B	B	B	
④ 社会人としての教養教育（後期教養教育）の推進	教務委員会	A	A	A	B	B	授業評価アンケートの有効回答数が極めて少なく、受講者数の減少傾向も見られることから、評価結果の信頼性に課題があるとされました。アンケート有効回答率の向上施策を講じるとともに、履修者数の数値目標を明確に設定し、広報・運営体制の強化を通じて後期教養教育プログラムの質的向上を図ること。
⑤ キャリア教育の推進・充実	教務委員会	A	C	B	B	B	受講者数が大幅に目標未達であり、数値目標の達成に課題があるとされました。今後は、数値目標の具体化と受講促進施策を強化するとともに、対象学生への早期周知と動機付けを徹底し、キャリア教育プログラムの魅力向上を図ること。
	大学教育センター運営委員会	A	B	B	B	B	
⑥ AI・データサイエンス関連教育体制の整備	教務委員会	B	B	B	B	B	
⑦ IRシステムの活用促進	大学教育センター運営委員会/情報システム委員会	A	A	A	A	A	資料提供にとどまらず、実際の利活用状況を可視化・促進し、次年度以降は活用度合いを測定可能な目標を設定すること。あわせて、IR機能を通じた大学運営への具体的貢献度を把握・評価し、IRの実質化と高度化を推進すること。
⑧ ICTを利用したきめ細かい教育体制の構築	情報システム委員会	A	A	A	B	B	UNIPAの利用率が目標値に達しておらず、活用状況に課題があるとされました。次年度に向けて、利用率100%の達成を目指し、活用促進施策を強化するとともに、専断制入試入学者への早期フォローアップ体制を整備すること。
⑨ ディプロマ・ポリシーに基づく体系的なカリキュラムの編成	教務委員会	A	B	B	B	B	
⑩ 教育成果の確認と評価法の確立	大学教育センター運営委員会	A	B	A	A	A	学生eポートフォリオの登録率が低迷しており、数値目標の達成にばらつきが見られる点が課題とされました。今後は、更に教育成果の可視化をより一層推進すること。
	教務委員会	A	B	B	B	B	
⑪ FD・SDを通じた教育力向上への取組	大学教育センター運営委員会	C	C	C	C	C	FD・SD活動の参加実績の集約が不十分であり、目標である参加率100%の達成状況が把握できなかった点が課題とされました。今後は、実施後の迅速な実績集約と管理体制を整備し、参加率の定期的な把握と進捗管理を徹底すること。
(2) 大学院の充実	-	-	-	-	-	-	-
① ディプロマ・ポリシーに基づく教育課程の充実	大学院研究科実施委員会	B	C	B	B	B	
(3) 地域連携の推進	-	-	-	-	-	-	-
① 地域との交流や連携への積極的な参加	社会連携委員会	A	A	A	B	B	実施事業数とWebサイト掲載数の対応関係が不明確であり、数値目標の検証が困難である点が課題とされました。今後は、各事業ごとの活動記録と掲載実績を対応付けて整理し、目標達成状況を検証可能な形で管理すること。
	学生委員会	B	B	B	B	B	
② 地域連携による教育の推進	社会連携委員会	A	A	A	A	A	数値目標の達成状況の記載が不十分であり、情報発信にも課題があるとされました。今後は、目標達成状況を明確に記載するとともに、Webサイト等を活用して活動内容の周知と情報公開を一層強化すること。
③ 大学間連携による教育の推進	社会連携委員会	B	B	B	B	B	分科会出席実績の記載や大学間連携活動の成果報告が不十分であり、数値目標の検証や情報公開に課題があるとされました。今後は、活動実績を明確に記録・報告し、成果を可視化するとともに、Webサイト等を活用した情報発信を強化すること。
	教務委員会	A	A	A	A	A	
(4) 企業連携の充実	-	-	-	-	-	-	-
① 企業連携による教育の推進	社会連携委員会	A	A	A	A	A	年間件数に加え、月ごとの掲載件数を把握しておらず、進捗管理の精度に課題があるとされました。今後は、月次単位での掲載件数を把握・記載できるよう管理方法を工夫し、外部向け広報を通じた成果発信を一層強化すること。
(5) 生涯学習の充実	-	-	-	-	-	-	-
① リカレント教育の推進	教務委員会	B	C	C	C	C	講座提供に至るプロセスの記載が不十分であり、評価根拠の明確化に課題があるとされました。今後は、要請受理から開講までの流れを明確に記録・報告し、リカレント教育としての具体的成果を可視化すること。
	社会連携委員会	B	B	B		B	
② 多様なニーズや課題への対応	学術情報委員会/社会連携委員会	B	B	B	B	B	公開講座の開催件数や受講者数の実績、図書館学外者登録に関するデータの記載が不十分であり、数値目標の検証が困難であるとされました。今後は、開催実績や登録件数を総数・新規・前年比で明確に整理・記載し、地域開放活動の実施状況を的確に報告する体制を構築すること。
2. 研究活動の充実に向けた取組	-	-	-	-	-	-	-
(1) 研究の推進	-	-	-	-	-	-	-
① 多様な研究の推進・充実	学術情報委員会	C	C	C	C	C	研究業績数の数値目標が実績に即しておらず、カウント方法の変更に関する説明も不十分である点が課題とされました。今後は、目標設定の妥当性を確保するとともに、指標変更時には旧基準との比較を明示し、プロセス評価の基準と進捗状況を明確に示す評価体制を構築すること。
(2) 研究支援体制の充実	-	-	-	-	-	-	-
① AI・データサイエンス教育に関する研究組織の設置及び充実	大学教育センター運営委員会	A	C	B	B	B	科研費に関する支援体制やアウト制度の運用状況が十分に整理・記録しておらず、評価基準の明確化にも課題があるとされました。今後は、他大学との比較や支援体制の見直しを含む取組内容を明確に報告し、採択率・件数の基準を整理したうえで、実態に即した目標設定と進捗管理を行うこと。
② 外部研究資金獲得に向けた支援	学術情報委員会	C	B	B	B	B	登録公開数が件数のみの記載にとどまり、%基準に基づく達成状況が示されていない点や、researchmap・リポジトリ登録の取組内容が不十分である点が課題とされました。今後は、%基準に基づくデータ管理・報告を徹底し、各取組の進捗状況と内容を体系的に整理・記録すること。
③ 研究成果の情報発信の強化	学術情報委員会	C	B	B	B	B	各数値目標の達成状況が評価基準に即して整理されておらず、判断の根拠が不明確である点が重大な課題とされました。今後は、目標達成状況を基準に基づいて正確に記録・報告するとともに、個別評価から総合評価への判断手順を明示し、自己点検・評価の精度と信頼性を高める体制を構築すること。
(3) 図書館機能の充実	-	-	-	-	-	-	-
① 図書館設備の充実、電子化への対応等、利用環境の整備	学術情報委員会	B	C	C	C	C	各数値目標の達成状況が評価基準に即して整理されておらず、判断の根拠が不明確である点が重大な課題とされました。今後は、目標達成状況を基準に基づいて正確に記録・報告するとともに、個別評価から総合評価への判断手順を明示し、自己点検・評価の精度と信頼性を高める体制を構築すること。
(4) 地域連携の推進	-	-	-	-	-	-	-
① 地域連携による研究の推進	社会連携委員会	B	B	B	B	B	年間相談件数、学生相談件数、セミナー実施回数などの数値目標に対する達成状況の記載が不十分であり、評価根拠も明示されていない点が課題とされました。今後は、各数値目標の達成状況を評価基準に照らして明確に記載し、根拠を具体的に提示することで、自己点検・評価の透明性と精度を高めること。
② 大学間連携による研究の推進	社会連携委員会	B	B	B	B	B	事業内容が中期計画の趣旨と整合しておらず、活動成果や評価根拠の記載も不十分である点が課題とされました。今後は、計画趣旨との整合性を常に確認・整理し、成果・評価の根拠を明確に記載すること。自己点検・評価の精度と説明責任を確保すること。
(5) 企業連携の推進	-	-	-	-	-	-	-
① 地域連携による研究の推進	社会連携委員会	B	B	B	B	B	事業内容が「地域連携による研究推進」という計画趣旨と整合しておらず、研究的側面の記載が不十分である点が課題とされました。今後は、計画趣旨との整合性を再点検し、研究的成果を明確に可視化するとともに、評価の根拠を明示した自己点検・評価体制を構築すること。
3. 学生支援活動に向けた取組	-	-	-	-	-	-	-
(1) 修学に関する支援・充実	-	-	-	-	-	-	-
① 入学前教育の充実	大学教育センター運営委員会	A	C	B	B	B	
② 学修支援体制（学修支援室）の充実	大学教育センター運営委員会	A	B	B	B	B	
	教務委員会	A	C	B	B	B	
③ 多様な学生への修学支援	大学教育センター運営委員会	C	C	C	C	C	数値目標に対する実績報告がなく、基礎学力不足者の利用状況に関するデータも収集されていないため、評価の根拠が欠如している点が重大な課題とされました。今後は、プロセス型の事業であっても数値目標を適切に計画・記録し、定量・定性両面から評価できる体制を整備すること。
(2) 学生生活に関する支援・充実	-	-	-	-	-	-	-
① 課外活動の支援・充実	学生委員会	B	B	B	B	B	参加率・奨学金執行率・イベント件数などの数値目標に関する定量的評価が欠如しており、自己点検の精度と透明性に課題があるとされました。今後は、数値目標に基づく実績を的確に記録・報告し、定量・定性両面から評価できる体制を構築すること。
② 学生相談体制（学生相談室等）の充実	学生委員会	B	B	B	B	B	学生向けイベントの実施回数や成果の記述が不十分であり、数値目標との対応関係やエビデンスの提示に課題があるとされました。今後は、評価指標と実績の対応関係を明確にし、成果を裏付けるエビデンスを適切に記録・提示できる体制を整備すること。
③ 国際交流・海外留学等に関する支援・充実	国際交流委員会	B	B	B	B	B	TOEICスコアや満足度、派遣人数に関する数値目標と実績の整合性が不十分であり、数値に基づく評価体制に課題があるとされました。今後は、各数値目標に対する実績を正確に記録・整理し、目標値との対応関係を明示のうえ、エビデンスに基づいた評価・報告体制を構築すること。
④ 多様な学生への生活支援	学生委員会/国際交流委員会	B	B	B	B	B	健康診断受診率の未達や支援制度に関する定量的エビデンスの不足、制度間の連携状況の記述不備が課題とされました。今後は、各支援制度の実績を正確に記録・提示し、医療費軽減施策等を含む制度間の連携状況を体系的に整理・記述する体制を構築すること。
(3) 就職に関する支援・充実	-	-	-	-	-	-	-
① 就職支援体制の強化	キャリア委員会（就職ガイダンス）	B	B	B	B	B	評価指標や目標との対比に関する記述が不足しており、進捗段階での指摘に対する改善も不十分である点が課題とされました。今後は、目標や指標に対する実績を定量的に提示し、取組内容と成果の因果関係を明確に示す体制を整備すること。
	キャリア委員会（就職相談）	A	B	B	B	B	
	キャリア委員会（企業幹旋）	A	B	B	B	B	
② 資格取得に関する支援	キャリア委員会	B	C	C	C	C	キャリアセンターの利用率や満足度に関する成果指標が「C」評価に該当し、特に「わからない」の選択数による影響が大きいため課題とされました。今後は、満足度調査の設問設計および集計方法を見直し、評価基準との対応関係を明確にしたうえで、成果指標の信頼性と説明可能性を高める体制を整備すること。
(4) 卒業生との連携	-	-	-	-	-	-	-
① 卒業生とのネットワークを活かした取組の推進	大学管理運営事項実施委員会	B	B	B	B	B	学内説明会の企業数が目標未達であり、参加者ゼロの事例も確認されたことから、学生ニーズとの乖離が課題とされました。今後は、学生ニーズを的確に把握するための調査を実施し、説明会設計の見直しとともに、ハイパッド開催や予約制の導入によりマナー精度を高め、KPIに基づく効果検証を行うこと。
② 後援会活動	学生委員会	B	B	B	B	B	資格講座・公務員支援講座において受講者数・合格者数が目標未達であり、周知体制や運営設計にも課題が見受けられました。今後は、目標設定を現実的かつ達成可能な水準へ見直すとともに、運営体制を再構築し、対応策の実効性を検証可能な形でモニタリング・記録・報告体制を整備すること。
(5) 保護者との連携	-	-	-	-	-	-	-
① 保護者ポータル等を利用した保護者との連携促進	教務委員会	A	C	B	B	B	同窓会との連携の質や活用の具体的成果が不明確である点が課題とされました。今後は、同窓会との協働体制を強化し、卒業生ネットワークを教育・学生支援に活用するとともに、取組成果を定量・定性の両面から可視化し、評価体制の実効性を高めること。
② 後援会活動	学生委員会	B	B	B	B	B	HUPASのログイン率が目標を大きく下回っており、利用状況の分析と改善が課題とされました。今後は、情報設計や連絡の見直しを行うとともに、実数と延べ回数の差異を踏まえた利用動向の分析を実施し、数値目標の達成に向けた実効的な改善策を講じること。
4. 学生受入、広報活動の充実に向けた取組	-	-	-	-	-	-	-
(1) アドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験の実施	-	-	-	-	-	-	-
① 基本方針の策定と入学選抜方法の改善	入試実行委員会	A	A	A	A	A	数値目標は達成されているものの、プロセス目標に関する記述が不十分であり、活動内容や実施プロセスの説明が不足している点が課題とされました。今後は、数値成果の裏付けとなる具体的な取組内容を明確に記述し、定量・定性の両面から妥当性のある自己評価を行うこと。
② 入学定員の充足	入試実行委員会	A	A	A	A	A	出張講義やカスタムプログラム等の実施状況や成果に関する記載が不十分であり、プロセスの可視化にも課題があるとされました。今後は、各事業の内容と成果を具体的に記述し、進捗状況を可視化することで、目的・効果との関連性を明確に示す体制を整備すること。
	入試実行委員会	A	B	B	B	B	
	学生委員会	B	B	B	B	B	
	教務委員会	A	B	B	B	B	
③ 高大連携への取組推進	大学教育センター運営委員会	B	B	B	B	B	クラブ交流以外の取組（単位先取りプログラム、One-Day Program、出張講義等）の実施状況に関する記載が不十分であり、進捗説明の不足が課題とされました。今後は、各取組の実施状況と成果を具体的に記録・記載し、クラブ交流についても継続的発展と多様な交流機会の拡充を計画的に推進すること。
④ 留学生受入れ制度の充実	国際交流委員会	B	B	B	B	B	アンケート設計の変更により数値目標の検証が困難となった点が評価体制上の課題とされました。今後は、検証不能に備えた評価ルールの明確化を図るとともに、外部データに依存する場合には代替手段やリスク対応策を事前に整備し、安定的な評価体制を構築すること。
	入試実行委員会	A	A	A	A	A	
(2) 大学広報機能の充実	-	-	-	-	-	-	-
① 広報活動を通じた阪南大学ブランドの確立	大学管理運営事項実施委員会	B	B	B	B	B	ICE活動のWeb掲載に関する報告がなく、数値目標との整合性にも課題があるとされました。今後は、各数値目標と実績の対応関係を明確に記載し、広報活動の成果も定量的に把握・報告できる体制を整備すること。
							日本語学校訪問が目標に1件届かなかった点は軽微な課題とされましたが、全体の活動実績は高く評価されました。今後は、各活動の目的と成果の対応関係を意識し、実績の記録と分析を継続し、未達項目についても改善の余地を検討することで、自己評価の精度向上を図ること。

5. 学園運営の充実に向けた取組	-			-	-	-	-
(1) 自己点検・評価活動の実質化	-			-	-	-	-
① 内部質保証システムの充実	大学管理運営事項実施委員会	B	B	B	B	B	事業タイプの明示がなく、点検結果に基づく改善効果の可視化が不十分である点が課題とされました。今後は、各事業の分類を明確にし、点検結果に基づく改善内容とその効果を可視化することで、自己評価の実効性と説明責任を高める運用体制を整備すること。
② 自己点検・評価活動を踏まえた改善活動の実施	大学管理運営事項実施委員会	B	B	B	B	B	プロセス評価や判断根拠に関する記述が不十分であり、評価の透明性に課題があるとされました。今後は、改善内容の効果や定着状況を明確に記述し、評価の根拠となるプロセスや判断基準を具体的に示すこと。
(2) 大学運営体制の整備	-			-	-	-	-
① 学長のリーダーシップに基づく取組の推進	大学管理運営事項実施委員会	A	B	A	A	A	プロセス評価および数値目標評価が「A」とされた根拠や、両者の対応関係の記述が不十分である点が課題とされました。今後は、各評価の根拠を明確に記述し、プロセスと数値成果の関係を論理的に整理・提示することで、評価の透明性と説明責任を強化すること。
② 組織的・継続的なSD体制の確立	法人/大学管理運営事項実施委員会 /大学教育センター運営委員会	A	B	A	A	A	各委員会の活動成果と全体事業評価との対応関係、ならびに数値目標との整合性が不明確である点が課題とされました。今後は、委員会成果を体系的に整理し、事業全体との関係性および数値目標との整合性を明示することで、評価の透明性と実効性を高める体制を構築すること。
(3) 社会的要請の達成	-			-	-	-	-
① コンプライアンスの徹底	大学管理運営事項実施委員会	A	A	A	B	B	相談員研修の実施状況や時間外勤務抑制に関する定量的成果が不明確であり、目標達成判断の透明性に課題があるとされました。今後は、各目標に対する実績を明確に記録・報告し、委員会名と実施主体の整合性を整理したうえで、評価基準を明示し、信頼性の高い自己点検・評価体制を構築すること。
② 情報開示への取組	法人管理運営事項実施委員会	B	B	B	B	B	情報公開に至るプロセスや評価基準との対応関係が不明確であり、根拠となる定量・定性的データの提示も不十分である点が課題とされました。今後は、評価根拠の明示とともに、情報公開の「質」の向上を図り、開示内容に基づく改善策やフィードバックの活用状況についても記述を強化すること。
(4) 施設・環境の整備	-			-	-	-	-
① 学生福利厚生施設の改善	法人管理運営事項実施委員会	A	B	A	A	A	成果指標が工事の実施状況のみにとどまり、評価基準としての妥当性に課題があるとされました。今後は、改善後の利用実態や成果の質を反映できる指標を設定し、これに基づいた検証と報告を行うことで、評価の実効性と透明性を高めること。